

2017年10月31日

2017年度第2四半期決算説明会 質疑応答サマリ

沖電気工業株式会社

Q：メカトロシステム事業の上期実績は、計画に対して売上と利益が未達です。この要因をもう少し詳しく教えてください。

A：中国については、想定していたことではありますが都市部のATM需要は電子マネー化などで、相当急速にニーズが縮小していると考えております。中国以外の新興国では、リサイクルATMの需要も出てきてはいますが競争も激化しており、ターゲットとしていた案件の一部が獲得できなかった状況です。また、中国は市場が変わっていますので、現在の市場動向を見まして一部在庫の評価減を行っております。次に向けての構造改革費用も一部あると、ご理解いただければと思います。まとめると、中国では想定した通りの環境になってきたというのと、他の新興国はこの上期については競争がなかなか厳しかったということになります。

Q：プリンター事業について営業利益が対計画比で21億円上回っていますが、そのうち為替と構造改革の効果がどのくらいずつあったか、イメージがありましたら教えてください。

A：為替の影響は3億円程度ですが、残りの詳細についてはご容赦いただければと思います。一部は構造改革が効いてきたということはあるのですが、費用の期ずれ等々もあり数字的にはこのような結果が出ているということです。

Q：沖電線への公開買付けについて目的、どういったシナジー効果が狙えるのか教えてください。

A：沖電線は名前から電線の会社というイメージをお持ちだと思いますが、実際はフレキシブルの基板や電極線などの世界に誇るニッチトップで、通常の電線会社とは異なるもので勝負しています。世界的な傾向として製造業の就労人口が減っていくであろう中で、ODM (Original Design Manufacturing) や、いわゆるEMSなどを含めて製造業の水平分業やファブレス化が進行中であると考えております。そのような状況の中でEMS、ニッチトップのパーツを一つにまとめてやっていくということは効果があり、お客様にワンストップのサービスをご提供できると考えております。沖電線のターゲットエリアは変量変種、ハイエンドであり、このキーワードはEMSとまったく同じです。EMSの事業は例えば計測機器や医療分野などを現在は強みとしており、今後は航空・宇宙・電装というようなところに向かっていこうとしています。一方で、沖電線はFA、ロボット、医療の市場で実績があり、変量変種かつハイエンドといったところが中心で、経営の実感としてターゲットとしている市場が似ていると考えております。一方で、お客様の名前は公表できませんが、個別で見っていきますとお客様の重複があまりないということもあります。我々のEMS事業も沖電線も、その営業活動は調達部に対して行う営業ではなく、設計や製造の上流に入り

込んで顧客と一緒に考えて、カスタマイズしてハイエンドのものを作っていく、というスタイルです。クロスセルをトータルでやっていくことで、シナジー効果が非常に高いと判断しました。

Q：プリンター事業に関して構造改革の効果というお話がありましたが、1Q 決算の時には上期で構造改革をやりきると聞いていました。現状構造改革は、全てやりきっているのか、下期にどのくらい後ろ倒しになっているのか、その進捗の度合いをパーセントでいうとどのくらいが上期で達成されたのでしょうか。

A：パーセンテージでいうのは難しいのですが、構造改革費用ということで申し上げますと2Q 累計で14億円、年間計画は約25億円ということで粛々と進めています。計画通り行っているつもりではありますが、若干遅れている感じであります。

Q：メカトロシステム事業ですが、ブラジルについてアップデートされた情報をいただけますか。1Q では受注したという情報がありましたが、その後の進捗度合いを聞かせてください。

A：総論として、ブラジルの経済自体はだいぶ良くなってきております。その関係でリサイクルATMの認証といった手続きは、相当程度進んでいるという実感がございます。その後プラスアルファで大きな受注がありましたといった報告をできる状態ではありませんが、確実にリサイクルATMに関するニーズ、それに対する認証といった具体的な動きが、幅広く出てきているという実感はあります。

Q：2Qの中国ATMの販売台数はどのくらいだったのでしょうか。通期は7,000台でみていらっしゃると思いますが、今回その計画自体の見直しはあるのでしょうか。

A：中国の上期実績については1,200台で、見直しは今のところ考えておりません。今のこの状況からいきますと、年間目標の7,000台達成はかなり厳しいのではないかと考えております。

Q：メカトロシステム事業は、ブラジル子会社の連結期間変更もあって1Qは10億円程度の赤字だったと思いますが、2Q以降はどのくらいのイメージでしょうか。イーブンまでの道筋は遅れ気味でしょうか。

A：数字につきましては遅れ気味ではありますが、若干の遅れという感じでとらえていただければと思います。

(注) 本資料における予想、見通し、計画等は、現時点で入手可能な情報と、合理的であると判断される一定の前提に基づいております。したがって実際の業績は様々な要因により異なる可能性があります。なお、内容につきましては理解しやすいように部分的に加筆・修正をしております。